



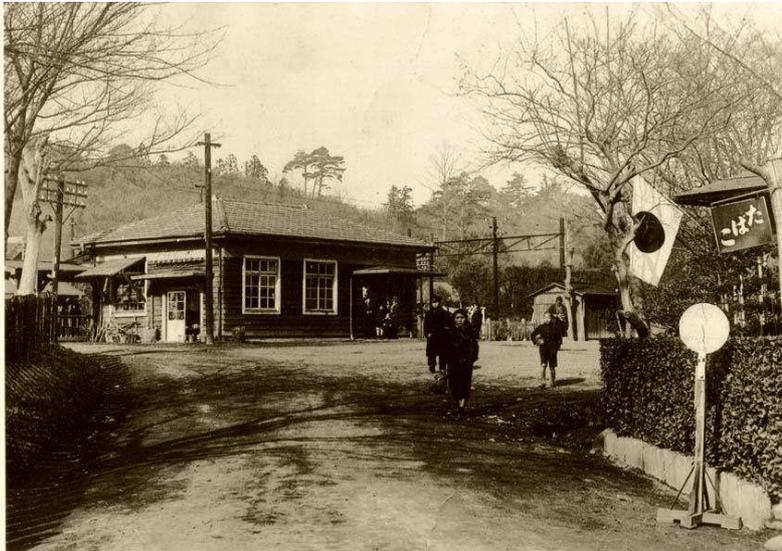
2008年9月3日
 発行 相原まちづくり協議会
 責任者 理事長 杉崎太吉
 所在地 町田市相原町 798-1
 電話 042(774)8005

9月23日に相原駅開業100周年 を祝うイベントを行います

横浜線が開通してから今年で100年になります。開通と同時に相原駅も開業しました。この100年の間、相原駅は相原住民にとって多くの思い出を凝縮し、シンボリック的存在です。このため、横浜線開通・相原駅開業100周年実行委員会では9月23日(祝日)午前10時からイベントを開きます。

内容は2面に掲載しているように相原駅西口広場と東口広場、相原駅2階の橋上通路で多彩なイベントを行います。是非、参加して下さい。

小雨の場合は予定通り決行します。雨天の場合は橋上通路で、写真展示、講演会、手形陶器プレート作りなどを行います。



- 明治39年 横浜線工事開始
- 明治41年 9月23日横浜線開業(横浜鉄道株式会社)
- 大正8年 鉄道院廃止・鉄道省となる
- 昭和2年 小田急線開業
- 昭和5年 菊名・小机間で国鉄初のATSの試験(自動列車停止装置)
- 昭和6年 相模鉄道厚木～橋本間開通。八高線開通(八王子～東飯能)
- 昭和7年 東神奈川～原町田間の電車運転開始。桜木町までの乗り入れ開始
- 昭和8年 ガソリンカー運転開始。貨物列車のみ蒸気機関車運行となる
- 昭和9年 相原駅舎完成
- 昭和10年 ダイヤ改正より下り54本に大幅増加
- 昭和11年 相模鉄道の橋本～八王子間乗り入れ開始
- 昭和12年 お召し列車運行(八王子～原町田)
- 昭和16年 全線電化完了。八王子～桜木町の直通運転開始。相模原駅開業
- 昭和20年 横浜大空襲により東神奈川駅全焼
- 昭和21年 駐留軍専用車(白帯車)走る
- 昭和24年 日本国有鉄道発足
- 昭和27年 73型電車導入
- 昭和32年 片倉駅、矢部駅開業
- 昭和33年 横浜線開業50周年・相原駅貨物取り扱い廃止
- 昭和37年 鴨居駅開業
- 昭和39年 根岸線桜木町・磯子間開業。新横浜駅開業
- 昭和41年 東急田園都市線長津田駅接続
- 昭和43年 東神奈川～小机間複線化完成
- 昭和44年 C58型蒸気機関車による貨物列車運行終了
- 昭和62年 国鉄民営化でJR東日本鉄道に
- 平成元年 103系さよなら運転・100%冷房達成
- 平成2年 京王相模原線橋本駅乗り入れ
- 平成4年 横浜線全線複線化工事完了 山手線の全駅で禁煙
- 平成9年 八王子みなみ野駅開業
- 平成14年 相原駅仮駅舎使用開始
- 平成15年 相原駅橋上駅舎に
- 平成16年 車体広告初登場
- 平成20年 横浜線開通100周年



協賛金ご協力をお願い 9/23当日受付を致します。または実行委員長 杉崎までご連絡下さい
 多くの方のご協力をお願い申し上げます。電話 042-774-8005

横浜線や相原駅の昔の写真を借用募集しています

横浜線開通・相原駅開業100周年イベントでは写真展示会を行います。そこに展示する写真を募集しています。横浜線や相原駅の昔の写真を持

っている方は、貸して下さいようお願いいたします。下記までご連絡下さるよう、お願いいたします。
 杉崎税理士事務所 電話 042-774-8005

100周年を迎えた横浜線

横浜線は1908年(明治41年)9月23日に横浜鉄道として開業(東神奈川~八王子間)しました。もともとは群馬県や三多摩地域で生産された生糸を横浜港まで運搬することを目的に敷設されました。「絹の道」の代用鉄道としての役割を期待されました。しかし、輸送ルートは中央線が開通していたため、当初の目的を十分に発揮されないまま、1917年に国の買い上げにより、国鉄が民営化するまでは、国営路線として活躍してきました。1987年に国鉄からJRに移管され、今日に至っています。

相原駅は横浜線開通とともに開業しました。



西口広場をメイン会場に多彩なイベント



相原駅開業100周年記念イベントは23日に盛大に行われます。相原駅の西口広場にステージ(舞台)を設営して、メイン会場になります。午前10時から相原駅開業100周年の式典を行い、石坂

演会を開きます。講師は交通評論家のサトウマコトさんです。サトウさんは「横浜線物語」など交通関係の多く著書があります。横浜線開業のいきさつ、その後の発展経過などについて講演していただくことになっています。

この後、ステージでは、音楽コンサートなどに切り替わります。

最初に大戸小学校、堺中学校、武蔵岡中学校の吹奏楽演奏、ガムシャの和太鼓演奏、地元の吹奏楽演奏が予定されています。また、相原鼓笛隊、陽田囃子保存会、キッズダンスなどもあります。

同じ西口広場では、ふわふわドームを設置します。お子さんを遊ばせて下さい。

また、豚汁の提供、金魚すくいや綿菓子店などの模擬店などの出店を予定しています。

文一・町田市長、JR側の挨拶も予定しています。

午前10時30分から、「横浜線100年」の講

東口広場ではSLミニ機関車が走ります

お子さんの記念に手形プレートを作成してみませんか

相原駅東口広場では子どもが乗れるSLミニ機関車を走らせます。家族で楽しんで下さい。

同じ東口広場で「子ども手形陶器プレート」の作成を行います。

これは、子どもの手形を粘土にとって、焼き付けて陶器にするものです。粘土は茨城県の笠間粘土と相原町の粘土を混ぜて使います。手形プレート

には子どもさんの名前も入れます。できた陶器は相原駅西口広場が完成した時にできる予定のモニメントに張って保存する計画です。記念として、いつまでも残りますので、参加して下さい。材料に限度がありますので、先着300人とさせていただきます。年齢も小学生までとします。(保護者の方同伴をお願い致します)

駅橋上通路で写真展を開催

相原駅橋上の通路では、横浜線・相原駅の歴史と写真の展示、「夕焼け小焼け」展を行います。

相原町駅写真展では、昔の相原駅舎、機関車、電車などのほか、駅周辺の写真も展示します。わかりやすく100年間の年表も準備しています。

「夕焼け小焼け」展では、作詞者の中村雨紅が

「夕焼け小焼け」を発表する頃、中相原地区の中村家に住んでいましたので、その内容、夕焼け、お寺などの写真を展示します。

「夕焼け小焼け」の誕生の地は相原町か

「夕焼け小焼け」は、誰でもが口ずさんだことがある有名な童謡です。作詞が中村雨紅、作曲が草川信です。この歌の舞台は八王子市恩方と云われていますが、実は相原町中相原地区との見方があります。このため、相原まちづくり協議会では「夕焼け小焼け」研究会を設置して、調査、研究しています。中村雨紅はペンネームです。本名は高井宮吉といいます。明治30年に東京府南多摩郡恩方村（現・八王子市）に高井丹吾氏の次男として生まれました。大正5年に青山師範を卒業のあと、日暮里の小学校の教師になっています。大正6年に南多摩郡堺村（相原町）中相原の中村武造氏の養子となりました。高井と中村のご両家は宮司職で、親戚関係にあります。高井丹吾氏の妹が中村武造氏の奥さんです。武造氏には子どもがなかったため、甥を養子に迎えたこととなります。

「夕焼け小焼け」の舞台は八王子市恩方が定説になっています。しかし、中村雨紅は昭和31年発行の「教育音楽」8月号で『夕焼け小焼け』がどこで、どんな場合に作詞されたかについては、35、6年も前の事で、これもどうもはっきりした覚えがありません」としています。

中村雨紅は20～26歳まで相原に戸籍がありました われわれは「夕焼け小焼け」の舞台は相原町ではないかと思っています。その理由は次

の3点です。

第1は、中村雨紅が「夕焼け小焼け」を発表したのが大正8年です。養子で相原に来たのが大正6年です。当時、都心に下宿をして日暮里の小学校の教師をしていましたが、休みの時は相原町の中村家に帰っていたと思われます。相原町の風景を思い描いて、作詞したことは考えられます。その後、雨紅は中村家との養子縁組を解消しますが、それは大正12年です。

第2は、夕焼け小焼けを発表したときは中村雨紅の名前にしていることです。高井姓でなく養子先の「中村」姓を使っています。なお、雨紅の「雨」は童謡の指導を受けた野口雨情からとっています。

第3は詩の内容が中相原地区の風景に合っていることです。以前から中相原地区では、「夕焼け小焼けの舞台は相原のものだ」と伝えられてきました。古老たちは、今でも確信しています。その理由は、中相原から見る夕焼けがきれいであること、夕方になると、城山町の普門寺の鐘の音が聞こえてきたこと、また、夕空にカラスの大群が津久井方面に帰っていくことが、よく見えたこと、などです。歌詞の2番目にある「子供が帰った後からは、円い大きな、お月さま、小鳥が夢を見る頃は、空にはキラキラ金の星」というのはまさに相原の風景そのものです。（4ページへつづく）



中村雨紅

丸山団地から相原小学校方向を見た夕焼けの写真です
今回の展示ではいろいろな表情の夕焼けをご覧ください

中村雨紅が養子縁組を解消したのは、宮司職にならないことが、はっきりしたからです。解消と同時に大正12年に本城千代子さんと結婚しています。中村家では、その後、雨紅のいここに当たる高井フクさん（武比古さんの祖母）を養女に迎えています。中村家は中相原町にある旧い家柄で、

現在27代目の相原諏訪神社の宮司を努めています。

中村雨紅は昭和元年に神奈川県立厚木実科高等女学校（現・厚木東高校）の教師を務め、昭和47年に厚木市で逝去されました。75歳でした。

相原の夕焼け小焼け（寺田前市長随筆より）

夕焼け小焼けで 日が暮れて
山のお寺の 鐘が鳴る
お手をつないで 皆帰ろ
鳥と一緒に帰りましょう

子供が帰った 後からは
円い大きな お月さま
小鳥が夢を 見る頃は
空にはキラキラ 金の星

これはご存知、童謡「夕焼け小焼け」、なつかしい歌である。

東京府恩方村（現・八王子市）出身の詩人・中村雨紅が大正8年に作り、大正12年に文化楽譜「あたらしい童謡」に掲載されたもので、作曲は草川信である。

中村雨紅は、明治31年2月、恩方村宮尾神社の宮司高井丹吾の三男として生まれた。

本名は高井宮吉という。

大正5年青山師範を卒業し、日暮里の小学校教師となった。

大正6年、20歳のとき、おばの家である堺村（現・町田市相原）の中村家の養子となった。

中村家は相原諏訪神社の宮司を代々つとめている旧い家柄で、現在は27代目が宮司となっている。当時、中村家には子どもはなく、後を継ぐべき養子に迎えられたようであるが、教職の道捨てがたく、やがて大正12年、自らの結婚とともに中村家との養子縁組を解消し、もとの高井姓へ戻った。

雨紅は、子どもたちの豊かな心を育てるために、当時「赤い鳥」などの進める芸術性の高い童謡運動に関心を持ち、野口雨情に心酔、雨情のような詩人になりたいと、中村雨紅というペンネームにしたといわれる。

雨紅は晩年厚木市に移り、75歳で亡くなった。



雨紅が詞った「夕焼け小焼け」はどこが背景になっているだろうか、今もとき話題になることがあるが、もっぱら生まれ故郷の恩方村の風景だろうといわれ、恩方をはじめ各所に歌碑がつくられている。

印象としては、素朴な山里の風景である。

雨紅自身は自分は恩方のような山里で育ったので郷愁を感じたのかもかもしれないと述べている。

また、作曲者の草川信は、自分の郷里、善光寺平の風景を思い浮かべながら曲をつくったと云っている。

陣馬山などの山々に抱かれた恩方の山里とともに、養家のあった相原の山里の風景もまた、この詩のモチーフになっていたのではないかと思われる。

試みに相原や小山地区の小高い丘に立ってみると、

眼下に相模野台地を俯瞰し、西片には丹沢や津久井の山々が連なり、山の端に夕陽の没する姿を見ると、まさに雨紅の「夕焼け小焼け」の世界である。

今の子どもたちは、この歌を唄うのであろうか。母と子が手をつないで歌を唄いながら夕陽を見つめる姿は、想像するだけでも平和で楽しい光景である。

相原の人たちは、相原こそ「夕焼け小焼け」のふるさとだと思っている。

雨紅は他に高井宮というペンネームも使っているが、「夕焼け小焼け」は養家の中村姓で通している。市長随筆その9より

「相原ふれあいフェスティバル」は10月12日に開催

相原地区連合町内会主催の「相原ふれあいフェスティバル2008イベント」が10月12日（日）午前10時から相原中央公園で行われます。イベントはスポーツ・文化など各種の行事があり

ます。舞台、模擬店、展示、抽選会などが予定されています。テーマは「みんな集まれ相原人間大集合」です。